

5 無電柱化をはじめ、京都らしい町並み景観を保全・再生するための財政支援・制度の創設等

京都ならではの風情豊かな歴史的町並みを、京都のためだけでなく、日本の宝、世界の財産として、保全・再生し、次世代に引き継ぐために、国の新たな支援等が必要であり、次のとおり求めます。

提案・要望事項

- (1) 着実かつ迅速な無電柱化の推進
- (2) 屋内から屋外に向けた広告（屋内広告物）を規制するための法整備及びガイドラインの策定
- (3) 景観上重要な歴史的資産やその周辺の景観を保全するための財政支援の拡充
 - ・ 街なみ環境整備事業に対する財政支援の充実
 - ・ 都市再生整備計画事業における国費率かさ上げ措置の延長

（国土交通省）

着実かつ迅速な無電柱化の推進

現状

本市では、幹線道路を中心に約61kmの整備を行ってきたが、平成21年度以降、重点的に整備する路線の計画延長約18kmに対して、進捗は約6kmにとどまり、景観系路線、緊急輸送道路や沿道建築物の耐震診断が義務化された道路といった幹線系路線とも、無電柱化の事業進捗が遅れている。

京都市における無電柱化の進捗状況

(平成30年3月末現在)

管理者	京都市			国土交通省(直轄国道)			計(km)
	景観系	幹線系	小計	景観系	幹線系	小計	
管路延長(道路延長)	10.3 (9.2)	51.0 (33.3)	61.3 (42.5)	- (-)	42.8 (21.4)	42.8 (21.4)	104.1 (63.9)

課題

平成30年4月、国において「無電柱化推進計画」が策定され、平成32年度までに、全国で1,400kmの無電柱化を行うとの高い目標が掲げられたことを受け、本市においても、これまで以上にスピードアップし、無電柱化事業に取り組む必要があるが、

- ・ 交付金の配分が不足し、十分な事業進捗が図れていない。
- ・ 景観に配慮すべき地区では、道幅が狭く、施工性が劣るため、幹線道路に比べて無電柱化に係る整備費が高い。
- ・ 低コスト手法の1つである小型ボックスが普及しておらず、特注品で割高となっている。
- ・ 整備費が最も安価となる直接埋設方式は、実用化に至っていない。
- ・ 電線管理者等が実施する、工事完了後の電柱撤去は、予算確保が難しく、進捗が図れていない。

小型ボックスの埋設状況(先斗町通)

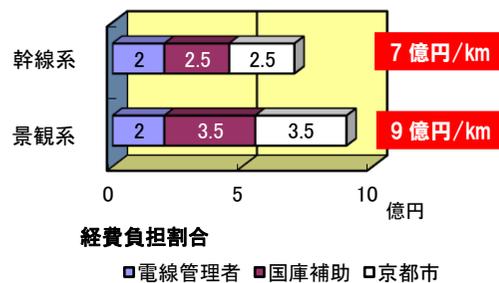


直接埋設社会実験(東一条通)



日本初の
実験

整備費

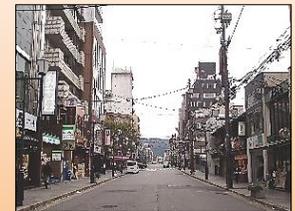


要望

- ① 国における十分な予算確保
- ② 景観に配慮すべき地区や沿道建築物の耐震診断が義務化された道路等における補助率引上げなど補助制度の拡充
- ③ 低コスト手法を普及、促進させるための指針「低コスト手法設計マニュアル」の策定
- ④ 直接埋設方式の技術基準や費用負担区分等に係る規定の策定
- ⑤ 工事完了後の速やかな電柱撤去促進のための補助制度創設
- ⑥ 国直轄事業における無電柱化事業の推進が必要!

効果

- ・歴史的な町並みの保全
- ・都市災害の防止
- ・低コスト手法の普及拡大
- ・安全性・快適性の確保



三条通イメージ(河原町通〜三条大橋)



先斗町通イメージ

